

資料9（p 4 関連） 国内事例集

NO	施策名	自治体	回答	主な施策												予算財源	法制度の特例	関係者との調整			施策実施について		その他	社会実験の期間
				トランジットモール	一方通行	速度規制	流入規制	クラック	ハンパ	バリアフリー	歩車分離	狭さく	カー舗装	景観整備	連結バス			地元住民	自動車関連企業	警察	施策の効果	課題点		
1	都心内100円バス	北海道札幌市	○																					都心内100円バス14.7～
2	旭川駅近く一旭川南高校間を運行、2系統あり	北海道旭川市	○												○								運行のための特別な施策は実施していない	
3	ユニバーサルデザイン柏林台地区整備(くらしのみちゾーン)	北海道帯広市	○			○		○	○	○		○		○		国土交通省		工事説明会の実施		施策に対して地元警察署の理解がない	積雪寒冷地のため、除雪のことを考慮	車両速度抑制対策については見直しが必要		
4	久須志四丁目3号線外道路改良事業	青森県青森市	○			○								○		地方道路整備臨時交付金	電柱の移設費用について道路法71条第2項を適用	早期の実施を望む声が多く、反対はなかった					片側に集約するだけとなってしまったが、歩行空間の確保および除排雪に効果が期待できる。田路線も整備していく予定。	
5	八戸市都心再生にぎわいトランジットモール社会実験	青森県八戸市	○	○			○									国土交通省		連絡協議会、説明会で調整	業務員用駐車場は市有地を代替として利用。他、連絡協議会で調整	連絡協議会、個別協議にて調整				歩行者天国 17.9.25 1日 セミトランジットモール 17.9.26 1日 トランジットモール 17.9.27～30 4日
6	くらしのみちゾーン基本計画策定、測量及び道路詳細設計業務委託	青森県八戸市	○		○	○		○	○	○				○	○	国土交通省		説明会を開催	市有地を業務員駐車場お代替として使用 連絡協議会にて運送事業者と調整	個別協議を重ね調整	調査結果を分析中			16.12.10～13 4日
7	盛岡シネマタウン社会実験	岩手県盛岡市	○	○			○									国土交通省	地元商業団体から協力を得られた反面、個別の商業者から疑問視する声があった	周辺営業駐車場に説明会への参加の呼びかけ			自転車整理実施に伴うマナーの向上	実施時期の再検討、周辺道路の渋滞の解消	期間中、歩行者は増加したが自転車は減少。来街者の7割が好意的であったが、商店街では必ずしも好意的ではなかった	トランジットモール&オープンカフェ 第1クール 16.10.2～10 9日 第2クール 16.10.23～31 9日
8	日詰商店街くらしのみち「過去と未来が循環する人にやさしい街づくり実験」	岩手県紫波町	○			○	○				○	○		○		H15年度:全国都市再生モデル調整事業 H16年度:社会実験	双方向車道:3.5m、両側側道1.25～1.75m、兼用ゾーン(ゆずりあいゾーン)1.0mで設計	商店街内部で調整		申請段階から内容が把握され、理解が得られた	周辺住民から理解をえられた 周辺道路整備に取り組むことになった	車道から店頭への乗り入れに配慮が必要 店頭駐車場狭さく部の箇所に配慮が必要 店舗から自動車通過時の騒音苦情が寄せられた 電柱が通行の妨げになり、実験結果の障害になった	15年度に一方通行、16年度に双方通行の実験を行った結果、ゆずりあいゾーンが生まれた。電線類地中化を目指していたが、電柱のセトバックとなった。	16.9.3～12 10日
9	郡山くらしのみちゾーン社会実験事業	福島県郡山市	○											○	○	国からの全額補助		実行委員会として参加してもらい、合意	実行委員会として参加してもらい、合意	実行委員会として参加してもらい、合意	まちかど情報システム:情報拠点のニーズの高さ、情報の必要性の明確化、操作性に良い評価 タウンモビリティシステム:市民への認知度が向上 細街路歩行実験:自動車の交通流	まちかど情報システム:情報拠点の設置場所の問題、情報の多様化、情報量の拡大 タウンモビリティシステム:段差やエレベータなどの改善、市民理解を得るための普及活動、場所や料金システム 細街路歩行実験:地元の協力	その後、商工会議所でオープンカフェ等、地域主体の道路活用に関する社会実験を行っている	まちかど情報システム 15.11.21～12.18 28日 タウンモビリティシステム 15.11.21～25 5日 細街路歩行実験 15.12.17,23 2日
10	幕張新都心への連節バスの導入に対する支援	千葉県千葉市	○												○			沿道自治会への説明を実施		駅入口交差点の停止線の変更 陸橋での安全対策 駅入口付近の違法駐車対策	減便による駅前広場の混雑緩和と環境負荷軽減、および急行運転による所要時間の短縮	駅前広場の一般車駐車対策		
11	中山参道整備計画	千葉県市川市	○			○	○	○	○	○		○	○	○		補助金要望について現在検討中	中山まちづくり協議会を通して調整		速度規制、一方通行の要望を行った	電線類の地中化による歩行空間の確保、景観の整備、沿道商店街の活性化	電線類地中化におけるトランスの確保 下水道と電線類地中化工事を同時施工するための調整	現在、施策実施に向けた詳細設計、各種検討及び調査作業を実施している段階であり、具体的な成果を報告できる状況ではない		
12	歩行者に安全なまちづくり導入実験(東初富地区)	千葉県鎌ヶ谷市	○						○	○	○		○	○	○	国土交通省	ワークショップ・ニュースの配布により周知徹底 住民へのアンケート実施や、住民参加の交通量調査を実施	ワークショップ開催毎に会議内容を報告、交通規制等の相談を行い連絡を密にした	ワークショップ開催毎に会議内容を報告、交通規制等の相談を行い連絡を密にした	ハンパや狭さくの設置による速度抑制 地域住民へのアンケートを実施し、過半数からハンパや狭さくの導入を肯定する意見が得られた	H16年に事後評価を検証するために、交通量調査・地域住民へのアンケートを実施。現在、課題等を整理中。	15.11.26～12.27 7日		
13	歩行者に安全なまちづくり導入実験(東武鎌ヶ谷駅西口地区)	千葉県鎌ヶ谷市	○		○	○		○	○	○					まちうら再生総合支援事業		商店主の9割から賛同(アンケートによる)						安全対策を講じることで運行許可	違法進入・駐車車両の増大。中心市街地の活性化への貢献度が低い
14	銀座通りトランジットモール実験	群馬県前橋市	○	○																				14.1.13 1日
15	千駄木三・四・五丁目地区	東京都文京区			○	○	○		○			○		○										
16	自由が丘交通社会実験	東京都目黒区	○	○		○	○							○		国費	住民・商業者の意向を考慮した内容となっている	路上荷捌き車の削減を図るため、路外駐車場を借用	路上荷捌き車の削減を指示され、実験ごとに対応策を講じた	安全対策の徹底を指示され、実験ごとに対応策を講じた	バス・トランジットモール実験:通常時の16%増 路上荷捌き対策実験:宅配・運送車両の台数が減少 放置自転車対策:日を追うごとに仮設駐輪場の利用者が増加	活動資金の確保 本格実施への準備 交通規制の弾力的な運用 仮設安全柵等の措置		16.11.23,28 2日
17	くらしのみちゾーン(瀬田一丁目及び二丁目地区)	東京都世田谷区	○		○	○	○		○		○	○	○	○		なし		地元住民が主体となり活動誌を配布		趣旨説明	基本方針・計画を検討・作成中	いかに地元の要望等を取り入れた事業ができるか		

NO	施策名	自治体	回答	主な施策												予算財源	法制度の特例	関係者との調整			施策実施について		その他	社会実験の期間
				トランジットモール	一方通行	速度規制	流入規制	クラック	ハンパ	バリアフリー	歩車分離	狭さく	カー舗装	景観整備	連結バス			地元住民	自動車関連企業	警察	施策の効果	課題点		
18	太子堂地区	東京都世田谷区				○			○	○		○												
19	原宿神宮前地区	東京都渋谷区			○	○	○		○	○					○									
20	連節バスを基軸とした「新たな公共交通システム」	神奈川県藤沢市	○										○		国土交通省 藤沢市		導入の際、駅前の商業代表者と調整を実施 占用スペースを必要とする関係で、発着バスに面する店舗等で調整		PTPSの強化や、バス走行環境の整備にあたり調整	バス待ち滞留者の減少やローターの混雑緩和 支線バスの導入効果と相まった幹線バス利用者数の増加	特殊車両を日常的に走行させなくてはならない事情の説明が必要			
21	想いやりのみちづくり事業	長野県松本市	○						○					○	国庫補助(交通安全施設整備)		協議会を47ブロックに分け、ブロック会と全体会議を開催		交差点改良等	効果はH20年に検討予定				
22	くらしのみちゾーン	新潟県新潟市	○			○			○					○	交通安全事業統合補助		勉強会を開催し、調整		勉強会に出席してもらい、調整	交差点・歩道のカー舗装化、カーミラーの設置を予定しているため安全性の確保が期待できる	地元住民の中でも、地区により温度差がある			
23	くらしのみちゾーン	富山県富山市	○									○		○	国土交通省		ワークショップに参加してもらい、基本計画を策定 工事の際は説明会を開催する予定		基本計画策定の際、協議会委員として参加 実施計画の際は細かい協議が必要					
24	連節バス運行実験	石川県												○										
25	堅町商店街地区歩けるまちづくり推進	石川県金沢市	○		○		○								金沢市		商店街の近接町会への説明		交通規制案の検討	地区の訪問者の増加により商店街が活性化し、車両進入の減少により静かなまちとなる	交通規制による周辺の交通状況の変化を調査する必要がある			
26	歴史的な補助幹線道路の歩車共存化に向けた交通社会実験	石川県野々市町	○			○			○	○					国土交通省および野々市町		地元説明会を実施(設置場所に面しているところは個別説明で協力要請)		県警察本部、地元警察署と協議	交通量8.8%減 走行速度15km/h程度減 騒音レベル3dB程度減 路上駐車は平日12台/12時間増加	ハンパ、シケンへの設置への抵抗感が住民にある バスルートの迂回に支障をきたしたと感じる利用者がいた 安全のための設置物などのため歩行空間が狭くなり、歩行者が車道部を通行するケースが多かった		16.10.21～11.20 31日 ・路側線の引き直し ・シケン設置 ・立体ハンパ設置	
27	トランジットモール社会実験	福井県福井市	○	○								○			国土交通省		社会実験協議会で調整			来街者の7割以上から高い評価を得た	地元商店街から一般車両も通行できる道路整備の要望があった		トランジットモール 17日 セミモール 7日	
28	バス優先レーン	静岡県静岡市	○												自動車事故対策費補助金交付要綱		沿線住民を対象とした説明会を実施	担当者打合せ会で協議	バス通過所要時間が1～2分程度短縮し、定時制が高まったと回答した人が65%になった	路線別の導入にあたり、地元住民の理解と協力、交通規制などがある			バス優先レーン 16.10.1～	
29	中心市街地交通管理計画	静岡県浜松市	○	○		○	○	○						○			反対意見が多く、トランジットモールの計画を白紙に戻し、ワークショップ等で再検討	意見の相違があったが、交通管理者の意見に従った		ワークショップや説明会等での地元住民や商業者の参加が少ない				
30	くらしのみちゾーン(大社町地区推進事業)	静岡県三島市	○		○					○	○				交通安全事業地区一括統合補助金 まちづくり交付金		門前町電線類地中化推進委員会と協議 住民参加のワークショップ形式も検討	協議によりバスルートを変更 製品搬出用大型トレーラの迂回を依頼 タクシー・バス・トラック運送業の組合に一方通行化路線ができることを周知	所轄の警察署には一方通行規制の承認を受ける	歩行者の安全確保 景観の向上 コミュニティ道路化による賑わいの創出	ハード整備をいかに中心市街地の活性化に結びつけるか 地域住民だけでなく観光客にも歩いてもらえるような賑わいをどのように創出していくか			
31	くらしのみちゾーン	愛知県犬山市	○			○	○				○	○			まちづくり交付金	都市計画道路の計画変更・用途の変更	地元団体と意見交換を実施		公安委員会と事前調整	城下町地区における「みちづくりの目標」・「まちづくりのビジョン」ができ、地区住民との共通認識ができた	観光客が原因の課題よりも、地元住民が原因の課題の対策に苦慮 町並み保存のルール策定で、手法・内容を検討中			
32	岐阜市総合型交通社会実験	岐阜県岐阜市	○	○	○	○	○		○	○				○	国土交通省 バスレーンは運輸局、トランジットモールは道路局	交通規制 道路幅員狭小のため安全島幅の特別認可	トランジットモールに対して沿道商店街からの反対が強く、実験区間や実験期間を縮小	営業駐車場の一部を借り上げ、荷捌き用駐車場として活用	「公共交通走行レーンと歩行者レーンの間に仕切りを設置」「歩行空間となる車道部分にはベンチ、テーブルなどを置かない」などの制約	バスレーン、まちなか歩き、レンタルサイクルの本格導入 市民アンケートで約75%の人が交通行動の転換の意志があるという結果	トランジットモールに対する沿道商店からの反対 トランジットモールの場所(区間)、あり方について再検討が必要		トランジットモール 15.11.1～3 3日	
33	世界遺産白川郷荻町における交通対策	岐阜県白川村	○		○		○				○	○					住民説明会等を実施	実施に向け今後の重点課題となっている	実施に向け協力体制づくりを進めている	交通安全、生活安全、環境保全につながる	住民合意が最大の課題		13.10.6,7 2日 13.10.8(進入制限なし)1日	
34	大津市都心地区交通実験	滋賀県大津市	○		○		○	○	○	○				○		右側停車する一時停車場を設けた	大津祭の曳山巡行日を実験期間に含んでいたため、NPO大津祭曳山連盟と協議 商店街振興組合の代表に参加してもらい、地元協議会を開催		交通規制の実施にあたり、詳細を協議	実験開始時は荷捌き場の認知度が低かったが、実験後半は利用が増えた 沿道事業者・住民から一方通行化について利便性の低下が指摘された	施策に対して過半数の賛同を得ているが、実験を行ったことで反対者の態度が硬化。地元主体で意見調整できる体制が必要。 電線類地中化整備の協議がまとまらない。	沿道店主を中心とした根強い反対がある。地元住民が主体となって意見調整できる住民団体の組織作りが必要。	17.10.7～9 3日	
35	くらしのみちゾーン	滋賀県草津市	○		○	○					○			○	市費を立命館大学との共同研究費として支出	国道工事事務所・滋賀県・草津市が連携を図っていく必要あり	事業主が地元協議会であるが、事業実施にあたり、役員とさらに調整を図る必要あり	協議会の組織に警察が含まれているため、十分な調整が図れている	住民の安全対策に対する意識高揚が図れた	一般住民への周知方法 国・県・市が連携を図って施策の推進に取り組む				
36	下鉤甲地区	滋賀県栗東市			○	○	○		○					○										
37	くらしのみちゾーン「島崎地区」	京都府宮津市	○							○	○				地方道路整備臨時交付金		広報誌で参加を募集し、ワークショップを開催		一方通行規制の可否	島崎公園付近の快適な歩行空間整備を図ることにより、安全な交通環境はもとより、生活の賑わいを持った空間を確保する。	地域の景観形成を促す ルールづくりなど、持続的に取り組んでいく必要がある。			

NO	施策名	自治体	回答	主な施策												予算財源	法制度の特例	関係者との調整			施策実施について		その他	社会実験の期間
				トランジットモール	一方通行	速度規制	流入規制	クラック	ハンプ	バリアフリー	歩車分離	狭さく	カーブ舗装	景観整備	連結バス			地元住民	自動車関連企業	警察	施策の効果	課題点		
38	自転車のまち界における「自転車力」を活かすためのまちづくり実験	大阪府堺市	○												国土交通省				所轄警察署との協議に多大な時間を要した	「電車への積み込み」は本格実施への希望率が高い 快適で安全な自転車走行路の条件が明確になった 混雑した歩道での自転車の手押しを自発的に行う人が増えた	交通機関への自転車の積み込みは、車両を低床にするなどの工夫が必要 駐輪場の不足を指摘する意見があった 路上駐車をなくしてほしいという指摘が多かった		17.3.5 1日 17.3.16～18 3日	
39	くらしのみちゾーン社会実験	大阪府岸和田市	○					○					○		国土交通省		趣旨は理解いただいているが、商売上の不便さから全面協力が困難		ゆるやかな規制で理解を得た	歩行者増加が多少あった オープンカフェが好評であった	警察の更なる規制緩和と商店等の意識改革	H17年もオープンカフェ社会実験を同一場所で行った レンタサイクルも実験継続中	レンタサイクル 16.10.23～12.26 土日 シェアード貸出 16.11 1ヶ月間道のタイムシェアリング 16.11.6～11.21 土日	
40	歩いて暮らせる“そね”まちづくりプロジェクト	大阪府豊中市	○			○	○		○			○					実施内容について、実行委員会で検討	通行止めの実施区間を駐車場等の影響の少ない区間に限定	速度抑制策としてカーブコーンの使用を予定していたが、許可が得られず変更した	実験の状況を撮影し、HPで配信	迂回車両が他の生活道路に流入		一方通行化 16.11.4～6 3日 通行止16.11.7 1日	
41	「歴史街道あるいてにぎわう枚方宿」社会実験	大阪府枚方市	○					○	○					○	国土交通省(枚方市に委託)		協議会を開き、地元住民と共に検討	歩行者専用道路を志向する区間にコインパーキングが1箇所あるが、にぎわいイベント用地として活用	当初許可を得ていた歩行者専用道路の試行時に通過交通が集中したため、警察と協議を行い時間を変更した	実験により通過交通が流入しない交通体系づくりに向けた地元住民の合意が得られた H17年に新たな交通規制と幹線道路の機能強化が実現した	交通体系の見直しにより安全な生活空間となったが、街の活性化への取り組みが必要		15.11.1～7 7日 通過交通排除	
42	交通円滑化社会実験	大阪府茨木市	○		○						○			○	補助金取得予定		荷捌きに不便が生じる等、駅周辺商店の反対意見がある		信号設置を1ヶ所希望しているが、了解が得られない	駅前広場の運用改善の可能性が把握できた 新たに発生するであろう課題を把握できた 駅周辺の「まちづくり」を進める契機となった	実験により商店への来客が減少したことや、搬入が不便になったとの意見あり		16.2.16～22 7日 一方通行等	
43	貴望ヶ丘くらしのみちゾーン	大阪府河内長野市	○							○			○				地域主体での取り組みに対し、市が支援する形で実施		ハンプ設置に対し否定的だったが、条件付で速度規制に協力いただいた	住民主体で実験を行い、ハンプの速度抑制効果や安全性を確認できた 通過車両に対し、地域の困っている状況が周知できた	勾配による高齢者や身体障害者の影響、騒音振動に対する不安が残っており、ハンプ常設については沿道住民の意見を取りまとめるのが困難	国土交通省 国土技術政策総合研究所 および財団法人 国土技術センターにおいて別途速度プロフィール調査等を実施	ハンプ社会実験 16.10.20～11.4 16日	
44	神戸市旧留地フリーウォーク	兵庫県神戸市	○				○							○										歩行者天国 17.10.8～10 3日
45	津和野町・人と環境にやさしい交通社会実験	鳥根県津和野町	○	○			○							○	国委託金		住民説明会の実施	個別訪問説明	警察協議を実施 交通法の遵守	循環バス：昨年に比べ収益がマイナス 乗合タクシー：利用率が低い	循環バスの運行時間帯・運行時間間隔の検討と採算性の試算 売り上げ調査の分析		16.11.3～28 交通量抑制施策 14日	
46	西川トランジットモール社会実験	岡山県岡山市	○	○			○										交通規制への協力依頼文書の配布		所轄警察署への道路使用許可	公道でのトランジットモール実験をし、ノンステップバスの乗降を実体験 街づくり討論において意見が得られた	循環バス利用者の仕組みづくり トランジットモールの客が少なく、別の組織を巻き込んだ活動が必要		10.11.29 1日 11.3.28 1日 11.5.30 1日 11.9.19 1日	
47	明るく住みよいまちづくりの実験	岡山県備前市	○				○		○	○	○		○	○	中国地方地域づくり等助成事業		役員が個別に説明を行い、同意を得た		道路使用許可申請に条件付きで許可を得た	走行速度抑制実験：5km/時程度の速度抑制がみられ、30km/時を超える車が通常の1/4程度になった 交通環境勉強会：参加者の共通認識が図れた 交差点花いっぱい運動：地域住民に交差点への意識付けをできた			16.2.20 1日	
48	広島市都心回遊ゾーン創出社会実験	広島市中区	○				○							○	国土交通省(広島市に委託)		地元商店街から実験協議会に参画していただき、調整を実施 実験実施については沿道店舗等を含む連絡部会を設置	関係者と個別に協議	県警本部、所轄警察署から実験協議会に参画していただき、調整を実施	放置自転車を抑制するための駐輪場の利用促進：公共空間を活用した小規模な駐輪場の確保 路上荷捌き自粛時間の延長：自粛時間の徹底、駐停車取締り、駐車時間の短縮化など地域団体や関係機関が一体となって幅広く検討していく必要がある		16.2.2～29 28 日 広島市都心回遊ゾーン創出社会実験 1 歩行者と自転車の分離 2 歩行者と自動車の分離 土、日、祝日		

NO	施策名	自治体	回答	主な施策												予算財源	法制度の特例	関係者との調整			施策実施について		その他	社会実験の期間
				トランジットモール	一方通行	速度規制	流入規制	クラック	ハンプ	バリアフリー	歩車分離	狭さく	カーブ舗装	景観整備	連結バス			地元住民	自動車関連企業	警察	施策の効果	課題点		
49	菊川町にぎわい地区道路特定事業計画	山口県下関市	○				○			○		○				特定交通安全施設等整備事業	菊川町ハスターミナル利用者及相当数の高齢者、身体障害者の割合大 菊川町ハスターミナル周辺に主要施設が集積 歩行者等の特定経路の見直し	懇話会の開催、まちづくり団体による研究反映により、大筋において理解を得ている	がソリッSSなど関連事業者も一応の理解を示している	各種協議会に参画、交通規制に関する協議を行う	国県道、市道の複合整備により道路交通生活環境が向上し、地域の活性化が期待され、地域間交流の拡大にもつながる	事業実施に伴う沿線関係者(地権者)の協力	菊川町の中心市街地の道路整備し交通の円滑化、安全性の向上を図ることにより地域の活性化をめざすものであり、周辺には観光施設、歴史的施設等はない	
50	ロープウェイ通り歩いて楽しい社会実験	愛媛県松山市	○	○			○							○		国土交通省	道路交通法上、トランジットモールの導入は困難	代表者への協議、組合員への説明	説明会の開催	交通規制をかけるのではなく、市が道路使用許可を得ることで対応	歩行者の増加	実験中に売上客が減ったという意見があり、商店街は自動車排除への抵抗がある		トランジットモール 5日 ループバス 4日
51	くらしの道ゾーン(道後地区)	愛媛県松山市	○											○		道路局 交通安全施設等整備一括統合補助、都市・地域整備局 まちづくり交付金	まちづくり交通特区による交通規制の提案	旅館共同組合、商店街振興組合、町内会とワーキングを実施	バス・タクシー事業者と調整中	まちづくり協議会の委員として参画	観光客数を松山市全体で、500万人から600万人を目指す	行政が整備する道路などインフラについては統一的な景観整備が可能だが、民間の整備については統一が難しい		
52	くらしの道ゾーン(三津地区)	愛媛県松山市	○					○		○				○		道路局 交通安全施設等整備一括統合補助、みちづくり交付金		代表者が協議会やワークショップに参加し、商店街の意見を集約		協議会のメンバーとして参加	回遊性を高め、観光の範囲を広げることで観光客数の増加を目指す	駅前広場の整備を行うにあたり、駅舎の存廃問題があり、方向性を検討中		
53	日新地区交通環境改善プログラム	佐賀県佐賀市	○		○	○			○					○		国土交通省佐賀国道事務所、佐賀市		進入規制にかかる地元住民の扱いは、ガードマンを立たせ住所を言ってもらい進入許可車高の低い車のハンプへの苦情は、趣旨を説明		歩行者・自転車保護のため、各種の安全対策を図る地区としている	実験期間中は、走行速度が下がっている	騒音、振動に対する苦情があり、台形ハンプの設置を検討		15.11.17～12.28 42日 第1期:ハンプ+速度規制 第2期:ハンプ+速度規制+指定方向外進入禁止
54	天領日田、歩いて時間を感じるまちづくり社会実験	大分県日田市	○		○		○			○				○		国土交通省		個別協議や夜間懇談会を開催 各戸に文書を配布し、協力要請を行った	個別協議	通行規制の申請書の提出	約6割の人が歩きやすい印象を持ち、約9割の人が流入規制についていいことだと回答	交通規制の本格導入には、住民や事業者との合意形成に今後も時間を要する	官民一体となって、継続的に実践へつなげることが重要	15.11.15～16 2日 16.2.21～22 2日
55	那覇市国際通りトランジットマイル社会実験	沖縄県那覇市	○	○			○									国土交通省		自動車利用の観光客を相手にしている店舗があり、導入を検討する必要がある	駐車場が使用しづらい状況があり、情報提供の取り組みが必要	歩行者の安全対策としてカーブコーンを設置し、バス通行帯を明確にした	環境改善効果(騒音レベルの低減)と来街者の増加	トランジットバス有料事業化の採算性 バスの位置情報サービスの提供 モ/ルールや路線バス乗り換えの利便性		13 1日 14 4日 15 3日